

総体予選 準決勝 流通経済大柏 vs 日体大柏

プレミアリーグ EAST 首位の流経大柏と県1部リーグ首位の日体大柏との一戦。

お互い1-4-4-2のシステム。流経大柏は強度の高い前線からのプレスでボール奪取を試み、ショートカウンターとサイドチェンジを駆使した攻撃を仕掛ける。対する日体大柏は2ボランチが立ち位置を変化させながら最終ラインから攻撃を組み立て、2トップのコンビネーションを起点に、シンプルに前線への配球を試みる。立ち上がりは日体大柏がMF⑥加藤を中心にボールを動かし、FW⑯小泉がフィジカルを活かしたポストプレー、右サイドMF⑫本多の個人技とDF②小菅の攻撃参加を契機に、CKでチャンスをつくる。しかし、徐々にプレスの強度と切り替えのスピードで上回る流経大柏が主導権を握り始める。流経大柏は前線4枚の出足の鋭いプレスからMF⑭飯浜とMF⑥稲田の2ボランチが中盤でセカンドボールを拾う回数を増やす。左サイドでは推進力のあるDF⑪堀川の突破とテクニクのあるMF⑧亀田が保持しながら逆サイドにオープンスペースを作り、サイドチェンジからDF②松本の強力な縦突破を活かしたサイド攻撃でクロスから得点を狙う。また、FW⑯粕谷が体を張って前線で収め、FW⑩柚木がDFライン手前のスペースでボールを持つと、アイデアとテクニクで相手ゴールに向かい、攻め切るシーンをつくる。前半終了間際の39分、日体大柏のビルドアップに対し、流経大柏が中盤でボールを奪取。⑯粕谷からのリターンパスで抜け出したMF⑦和田が右足を振り抜き先制に成功。

後半も、立ち上がりからボールを保持しながら前進を試みる日体大柏に対し、流経大柏はアグレッシブに相手陣地でプレスをかけ続ける。42分、流経大柏は⑧亀田の鋭いプレスをきっかけにセカンドボールを拾った⑭飯浜がすかさず中央へラストパス。バイタルエリアに斜めに走り込んだ⑦和田が持ち込んで左足を振り抜き、この試合2ゴール目となるプレーで追加点。得点後もたたみかけるようにプレスをかけ続ける流経大柏。奪ったボールは視野の広い⑭飯浜を中心に冷静にボールを動かし、ペースを握る。また、全体が攻撃から守備の切り替えの局面で強度とスピードを維持し、失っても奪い返すことで二次攻撃につなげる回数を増やす。対する日体大柏は、GK①早川を中心にゴール前で粘り強く守ることで追加点を与えない。攻撃では選手交代から前線にフレッシュな選手を投入し、縦への速い攻撃から得たCKなどから追いつきたいが、流経大柏はゴール前の集中した守備で決定機をつくらせない。選手を替えながら最後まで運動量を落とさなかった流経大柏がそのままリードを保ち試合終了。プレミアリーグで首位を走る流経大柏が強度の高さと切り替えのスピードで日体大柏を上回り、決勝戦に駒を進めた。

千葉県立松戸馬橋高等学校 佐藤研人

総体予選 準決勝 東京学館 vs 市立船橋

東京学館は1-4-4-2、市立船橋は1-5-3-2のシステムでスタート。

前半風上となった東京学館は、フィジカルレベルの高いFW⑨宮田とFW⑫松下を走らせるロングボールを中心に相手陣内に侵入し、セットプレーとロングスローでバイタルエリアに人とボールを入れていく。特にMF⑦木内のスローインの飛距離とスピードは驚異となっていた。自陣からもロングスローで敵陣深くに侵入できるので、市立船橋は集中を切ることとはできない。インプレー時間を減らすことも、市立船橋のプランを崩すポイントとなった。

一方の市立船橋は、1-4-4-2と1-5-3-2を可変しながらゲームを作る。東京学館の中盤を省略したサッカーに合わせ、無理なポジションはせずにFW⑨伊丹と⑩久保原をターゲットにしながらか、リスクを負わないシンプルな配給で相手ゴールを目指す。すると9分、左サイド後方からのLWB⑬渡部のFKからFW⑨伊丹がヘディングを落とすと、DF⑤岡部の下にこぼれ冷静にコントロールしシュート。市立船橋が先制に成功する。試合序盤の失点によって東京学館のゲームプランは崩れたかに見えたが、東京学館の猛攻はさらに勢いを増すこととなる。カウンターからのサイド突破で得たCKも面白いデザインであったが得点には至らず、猛攻を凌いだ市立船橋の1点リードであったが、東京学館ペースであると言っても良い前半戦であった。

風向きが変わった後半、2点目を狙いたい市立船橋はボールを保持しながらリズムを作り東京学館の守備陣形を崩しにかかるも、魂のこもったプレーでボール奪取からの速い攻撃の前になかなかペースを掴めない。すると53分、東京学館に待望の同点ゴールが生まれる。敵陣深くでのプレスからショートカウンターを仕掛け、そのクロスから抜け出した東京学館FW⑨宮田がPA内で倒されPKを獲得。キッカーのDF④熊谷が左下隅に冷静に流し込み同点に追いつく。同点後も東京学館の勢いは止まらず、市立船橋はMF⑦峯野、MF⑧金子を投入し、FW⑩久保原を中心に攻撃を組み立てるも、東京学館の身体を張った守備の前になかなか得点を奪えない。試合序盤は昨年度王者市立船橋のプレッシャーに思い通りのプレーができなかったが、徐々にスペースを見つけ、奪ったボールを丁寧に繋いで時間を作りフィニッシュまで持っていく回数が増え、1-1で後半を終了し、延長戦に突入する。

延長前半、MF⑦峯野が攻撃のリズムを作り、前方へのパスが増える。すると90分+1分にLWB⑬渡部からのアーリークロスから、DF②井上のヘディングの折り返しをFW⑨伊丹がいち早く反応しボレーシュートを決め勝ち越しに成功。市立船橋の勝負強さが際立った準決勝第2試合は、2-1で市立船橋が勝利し、2年連続で流経大柏対市立船橋の決勝となった。

総体予選 決勝 流経大柏 vs 市立船橋

流経大柏は中盤をボックスとした1-4-4-2。CB④奈須、③富樫共にロングパスの質が高く、ヘディング力にも長けている。MF⑭飯浜はリスク管理能力にも優れながら攻撃の起点となるパスも供給できる。LSH⑧亀田と LSB⑪堀川のコンビネーションでの崩しは脅威である。準決勝で2得点の RSH⑦和田はFWとの距離間も良く両足でシュートが打てる。RSB②松本は突出した身体能力が魅力である。両サイドに気を取られてしまうと得点感覚に優れたFW⑩柚木とフィジカルレベルの高いFW⑯粕谷も脅威となる。プレミアリーグ首位である流経大柏の圧倒的な攻撃力とトランジションに対し、市立船橋は中盤をフラットな1-4-4-2システムにして対応。フィジカルレベルの高いFW⑩久保原、FW⑨伊丹をターゲットにして時間を作り、LSH⑧金子の突破力を活かしながらゴールに迫る。MF⑦峯野の献身的で狡猾なプレーや、LSB⑬渡部の左足キックの精度も魅力である。

前半開始早々流経大柏の縦への迫力ある突破によって、決定的なチャンスが生まれるも、市立船橋のGK①ニコラスのビックセーブでゴールを割ることができなかった。立ち上がりは流経大柏ペースで試合が進むも、両チーム共にデザインされたセットプレーを持っており、常に気が抜けないゲーム展開が続く。ポイントとなったのは、流経大柏両CBからのロングフィードをRSB②松本のスピードに合わせたピンポイントパスをスピードに乗ったまま突破を図ったプレーは、他チームであれば得点を許していたであろうが、市立船橋は2本ともにスライドとカバーリングで対応したところを見ると、プレミア勢同士の決勝であることが頷ける。準決勝の試合運びを観れば流経大柏ゲームとなると思われた前半は、市立船橋、スコアレスで終了する。

後半、市立船橋は風上を活かし、久保原、伊丹にボールを集めながら相手陣内に入っていく。流経大柏は後方からビルドアップをしながら市立船橋のスペースを空けたい。一進一退の攻防が続いた53分、市立船橋に待望の先制点が生まれる。流経大柏GKのロングパスをキャッチしたGK①ニコラスは、相手の守備トランジションの遅れを逃さず、左サイドでフリーとなったFW⑨伊丹に質の高いパントキックを送ると、そのまま縦にドリブルすると相手を抜かずにクロスを上げると、ファーでフリーとなったFW⑩久保原のダイビングヘッドで流し込み先制点を挙げる。

その後、市立船橋は守りに入ったのか、押し込まれるシーンが増える。その隙を逃さなかった流経大柏は60分、FW⑩柚木のCKからCB③富樫のヘディングはドンピシャリで合わせ同点に追いつく。市立船橋のマンツーマンDFが剥がされたというよりも、富樫のフィジカルの強さが際立ったゴールであった。

同点に追いついた流経大柏はさらにその勢いで逆転を狙うも、今大会において粘り強さと勝負強さが際立っていた市立船橋は73分、ロングスローに対応した流経大柏のクリアを拾った⑬渡部がゴール中央付近に浮き球パスをCB⑤岡部がヘディングでそらしたボールにいち早く反応したCB④ガブリエルの横パスにFW⑨伊丹がヘディングで流し込み、勝ち越しに成功する。

1点のビハインドを負った流経大柏はMF⑭飯浜に変え、⑤佐藤をCBに、CBだった④奈須を前線に上げパワープレーを試みるも、市立船橋の堅い守備を崩すことができず、市立船橋は風上を活かしながら相手陣内でうまく時間を使い逃げ切り、3大会連続の全国総体への切符を手にした。